

大道芸アジア月報 2019 年 4 月

Vol. 30、no. 4

編集・発行人 上島敏昭

〒165-0025 東京都中野区沼袋 2-31-2

春山荘・東

Tel&Fax 03-3388-4348

■大道芸案内

主な大道芸スポット(土・日・祝日など、通年大道芸が見られるポイント)

■大阪・天保山海遊館広場 ■お台場・デックス東京ビーチ ■クインズスクエア横浜 at! www.studioeggs.com ■名古屋・大須ふれあい広場

■ヨコハマ大道芸 (山下公園、グランモール公園、ジャックモール) <http://daidogeij.jp/> ■しずおか大道芸の街 <http://shimarukai.org/>

■東京都へブンアーティスト www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/ ■大阪パフォーマーライセンス <http://www.osaka-performer.com/index.php>

■江ノ島大道芸 <http://www.fujisawa-kanko.jp/alacarte.html> ■仙台まちくるパフォーマーズ <https://machi-kuru.com/performers>

★浅草雑芸団の旅

●3月30(土) 練馬文化センター・森と劇場のサーカス・フェスタ 2019

★今月の大道芸公演

△ギア GEAR <http://www.gear.ac/> ○千葉ポートシアター (京葉線「千葉みなと」駅下車)

●1月より連日(火・水は休演) 開演時間は要確認

ブレイクダンス、マジック、マイム、ジャグリングなど融合した劇場パフォーマンス。

ジャグリングには、森田智博、ボンバンガー、CONRO、小林智宏、KaNaTa 等が出演

問合せ・電話 050-5238-3533 (イーストバジョン公演事務局)

△フィンランドサーカス <http://www.littleworld.jp/events/2019spring/index.html> ○大山市 リトルワールド

●3月16(土)～6月16(日) ※火曜日休演

△ヴィクトリアサーカス <https://www.nasuhai.co.jp/hotnews/detail.php?n=0541> ○那須ハイランドパーク

●3月20(木)～4月7(日) 11:30/ 13:00/ 15:00

△森と劇場のサーカスフェスタ 2019 https://www.neribun.or.jp/event/detail_n.cgi?id=201812281545971069 ○練馬文化センター

●3月30(土) 9:30～17:30

ふくろこうじ、沢入国際サーカス学校卒業生サーカス団、ムンドノーボポコブヨ〜ダン、浅草雑芸団、シャボン玉くりちゃん

△グラン・ヌーボー・シルク <https://www.mbs.jp/gfo-gnc/> ○大阪・梅田グランフロント

●3月30(土) 31(日)

クロワッサンサーカス、いくらサーカス、ミラーボールサーカス

〈ワークショップ〉綱渡り体験/エアリアル体験/フラフープ体験 〈ジャグリング大会〉 〈立体音響&シャボン玉インスタレーション〉 〈ピエロのクラウングリーティングなど〉

△原爆の図 丸木美術館 サーカス博覧会 <http://www.aya.or.jp/~marukimsn/> ○丸木美術館 (埼玉県東松山市)

●4月2(火)～5月26(日) ※休館 4/8(月)、4/15(月)、4/22(月)、5/13(月)、5/20(月)

〈講演〉石丸健二郎の語るサーカス 4月21(日) 14:00

〈大道芸〉上島敏昭 5月18(土) 13:00

〈ギャラリートーク〉都筑響一 5月18(日) 14:00

入場料:一般¥900、中高生¥600、小学生¥400

△第65回全日本ちんどんコンクール <http://www.ccis-toyama.or.jp/toyama/cin/top.html> ○富山市・富山県民会館ほか

●4月5(金)～7(日)

△第5回かわさきシネマ大道芸フェスティバル http://lacittadella.co.jp/cinema_performance/ ○チネ・チッタ界限、

●4月7(日)

ダメじゃん小出、三雲いおり、タカバーチ、アコる・デ・ノンノン、un-pa、フレディーノ、サブリミッツ、おじやらず、天才イカレポンチ、ゼロコ、コバヤシユウジ

〈特別公演〉「日本の放浪芸」から半世紀～現代の大道芸を考える(上島敏昭) 〈スペシャルライブ〉ボヘミアン・ラブソティ演奏再現(QUEENESS)

△志免祭～国際コメディシアターフェスティバル 2019 <http://h732.net/simesai/> ○福岡県志免町志免2丁目

●4月13(土)・14(日)

前夜祭 4/12 18:30 (シーメイトホール) 加納真実、クラウンペペ、清水宏、Power Spot YUURI、三雲いおり、望月ゆうさく

13.14 出演 加納真実、しょぎょ〜むじょ〜ブラザース、TEN-SHO、Power Spot YUURI、三雲いおり、望月ゆうさく、ゆきんこあきら、アダチ宣伝社、un-pa、クラウンシロップ、こんぺい党、フェイスペインターみほう

13のみ インダスガンジスドーダス、フジ、ひとりプロレス、Mr.BUNBUN、YAYA、RINTARO、クラウンペペ

14のみ 扇せんす、カナルペキノワ、サムくんとメロンちゃん、しっぺ、CHISYA、フットボウズ

H732シアター 13日 12:00 /14:00 /16:00 清水宏ショートショート (500円)

H732シアター 14日 13:30 清水宏ひとり大河ドラマ(大人2000円、子ども500円)

H732シアター 15日 11:30 /16:00 Mr.BUNBUN フデアヤ in シメサイ (500円)

△第3回多治見大道芸見本市 <https://tajimidaidougei.jimdo.com/> ○多治見駅北の虎溪用水広場、多治見市役所駅北庁舎前ステージほか

●4月13(土)・14(日)

ラストラダカンパニー、Kanauknot、サンキュー手塚、ゼロコ、CHIKI、山本光洋 アートパフォーマー☆ファイター、アストロノーツ、油井ジョージワンマンバンド、わくわくブーブとはしご、akiyo、Over Tone、オマールえび、加藤みきお&ひろみち、くす田くす博、スピニングマスターOK!ヒロヤ、バレーンパフォーマーASUKA、Rei Iwakura、生人形雪狐、健山、Juggler Kohei、大道芸人ジニー、バレーンパフォーマーさくら、moment

△ヨコハマ大道芸 <http://daidougei.jp/> ○横浜市・みなとみらい地区、伊勢佐木町モール、石川町地区、ほか

●4月20(土)・21(日)

△第20回深川美楽市 <https://birakuichi.wixsite.com/birakuichi> ○深川江戸資料館通り

●4月21(日)

Kanauknot、ゼロコ、大道芸人ジニー、綾乃テン、油井ジョージワンマンバンド、リユーシー、目黒宏次郎、KARAKI、大道芸人しらお、ハードパンチャーしんのすけ、狼執事、アストロノーツ、ミスターファーム、ケンハモたろう、沢村誠一、生人形 雪狐、しろみときみ、ソらと晴れ女、KEIKO・フェイスペインター☆ミホウ、ボディペインター・マユラ、浅草十一寸、

△第44回野毛大道芸 <http://nogedaidougei.com/> ○横浜・野毛商店街からい

●4月27(土)28(日)

〈スペシャルプログラム〉 沢入国際サーカス学校出身パフォーマーによる特別編成ショー：ジョングルー一座 (CHEEKY!、DAIKI、田中健太、喜多和裕、目黒宏次郎) パスパレト一座 (しゅうちょう、Asako、タカシエンカ、健斗、颯星)

アコる・デ・ノンノン、アストロノーツ Mark2、あめ細工吉原、idio2、うつしおみ with イーガル、O. F. F (かみばらけんた)、紙磨呂、桔梗ブラザーズ、クラウンジュカ、ケチャップリンたび彦、桜小路富士丸 (ギター伴奏 服部こうじ)、サブリミット、ZANGE、ジェンガ金次郎、紫穂 (蛇の誘惑)、Syan、しよぎょーむじょーブラザーズ、しろみときみ、須田妍峯 (スダケンボウ)、タカパーチ、中国雑技芸術団、DemaNtoid、東邦新悟、日本民間伝承技術しんこ細工、ハラボ、Bar to (バート)、日ノ出サンデーズ、ヘルシー松田、ホワイトアスパラガス、本町小学校ブラスバンドクラブ、Martina (マルティナ)、望月ゆうさく、油井ジョージワンマンバンド、雪竹太郎、りずむらいす、LOTO!!

△第11回高円寺びっくり大道芸2019 <http://www.koenji-daidougei.com/2018/> ○高円寺の11商店街と公園

●4月27(土)28(日)

Julot、チボラタス、中国雑技芸術団、TOKYO 雑技京劇団、大駱駝艦、サンキュー手塚、ダメじゃん小出、加納真実、芸人まこと、うつしおみ、桔梗ブラザーズ、フレディーノ、セクシーDAVINCI、ユキンコアキラ、ココナッツ山本、サクノキ、ひこひこ、伊藤祐介、ASIA GOLD PRO WRESTLING、Eppai&マサトモジャ、SUKE3&SYU、3ガガヘッズ、聖寿、てのひら、マジカル TOM、GEN、HIRO&AG、こ〜すけ、荒木巴、ブラックエレファント、マリンパレーン、Pere Jovanov、松元かなこ、関口大、ボード山田、アストロノーツ、ストレート松浦、花輪茶之介、E-chan Belly Dance Studio maru、un-pa、stiltango、okk、せせらぎ、マシマシ、HARO、トリドリパレード

△アート・オブ・サーカス Scala 夢の階段 <http://festival-shizuoka.jp/program/scala/> ○静岡市静岡芸術劇場

●4月27(土)13:00 /28(日)13:00 /29(月)13:30

コンセプト・演出・舞台美術：ヨアン・ブルジョワ、出演：メヘディ・バキ、ヴァレリー・ドゥセ、ほか

一般¥4100、ペア券¥3600×2、学生割引、グループ割引、シニア割引あり

問合せ 054-202-3399 (SPAC チケットセンター)

△仕立て屋サーカス大博覧会 <https://www.circodesastre.com/> ○新宿・LUMINE 0

●4月27(土)~5月7(火)

4月27~4月29 ゲスト・青柳拓次

4月30~5月2 ゲスト・中島朋子

5月4~5月6 ゲスト・辻本知彦

△第10回清水みなと大道芸2019 <https://www.dream-plaza.co.jp/event/detail.php/520> ○清水市・マリンパーク一帯

●5月3(金)4(土)5(日)

スペシャルアドバイザー：三雲いおり 体験ブース：にじいろペイントラボ、SEOPPI

5/3 Naoto、零点振動、セミズストリート、Rei Iwakura、おろしぼんづ、斉藤エイスケ、メランコリー鈴木、エキセントリック吉田、グリーズ、アストロノーツ【ゲスト】・川原 彰、こうじとちから、TEN-SHO

5/4 Entertainer Hi2、こ〜すけ、PerFormer ZEN、ゼロコ、油井ジョージワンマンバンド、エル、ブンブク、KARAKI、ぴのこ、しろみときみ【ゲスト】りずむらいす

5/5 桔梗ブラザーズ、渡辺あきら、チムチムサービス、佐々木カンタ、渡邊 翼、謳歌、高橋翔馬、Statue KaI、愛のマーメイド【ゲスト】チャタ、チーム劇街ジャンクション

△とよはしアートフェスティバル2019・大道芸 in とよはし <https://www.toyohashi-at.jp/> ○穂の国とよはし芸術劇場、豊橋駅周辺

●5月4(土)5(日)

若林正の

食って極楽

ラーメンだけのはずが

…沼袋「らーめん酒場・桔梗」

今回は沼袋。雑芸団の練習で、最近訪れる機会が多い。駅そばの担々麺の「香氣」がルーティンだが、今回は、区民センター前の「らーめん酒場・桔梗」。練習終わって夜9時頃に夕食のつもりで入る。入口の印象とは違って店内は意外と広く、カウンターとテーブル席で三十人以上入りそう。家族連れと若者グループで賑わっている。

さあラーメンでも・・・とメニューを見ると、酒ツマミの充実してること！餃子¥190、条件反射で生ビールと一緒に注文。餃子意外とうめー。ホッピー ¥390 に切り替えてニラ豆腐 ¥380 も。これは冷奴にごま油と塩、ニラみじん切りをかけただけ。でもんまい！ワカウキン ¥380？なんだこりゃ、頼んじやえ。出てきたのは豚バラに何やらハーブ掛けて焼いたもの。微妙な薫りだがなかなか美味。ミャンマー料理だと。しかしツマミの種類多いけど値段設定が「？」なもの。マグロ刺身 ¥390 とか生牡蠣 ¥190 は安いけど、ぬか漬けや赤ワインナが ¥480 って…よほど量あるのか？

てなこと思いながらけっこう飲んだ。メは辛つけ麺 ¥850 大盛サービスに、ちびチャーシュー丼 ¥120! 安い!! どうもアルコールで食欲に火がついたらしいが、さすがに必死の思いで完食。げっふ。

ここはチェーン店らしいが、トイレに兄弟店の「つけ麺銀座桔梗」、「オイスターバー桔梗」のチラシが貼ってある。凄く高級そうだが、この店のははえらく大衆的だな〜。安くていいけど。

〇つけ麺うかったが、もう少し駅に近けりや度
…7ワカ

大道芸・見たり・聞いたり・演じたり

☆その 329

ふたつの公演案内

◆丸木美術館・サーカス博覧会

◆かわさきシネマ大道芸・講演会
上島敏昭

◆丸木美術館・サーカス博覧会

4月2日から5月26日まで、埼玉県東松山市の「原爆の図 丸木美術館」で、サーカスをテーマに展示が行われる。内容は、写真家・本橋成一撮影のサーカス写真とそのコレクション、画家・澤田正太郎の描いたサーカスの掛け小屋の絵とスケッチブック、丸木俊とスズキコージのサーカス絵本原画、それに、編集者で写真家・都筑響一および京都文教大教授・鶴飼正樹の所蔵する絵看板など。

丸木美術館は、東武東上線の東松山駅から更にバスに揺られていく、きわめてアクセスの難しいところにある。なんでも、丸木位里のふるさとである広島風景によく似ていたところから気に入り、夫妻がつの棲家とし、美術館もオープンさせたという。都幾川が大きく蛇行する湾曲部を見下ろす高台に建つ建物は、天井が高く、解放感が心地よい。また二階の和室から眺める景色は武蔵野がはるかに見渡せて、夫妻が惚れ込んだのもうなずける。



◆丸木美術館の入り口

丸木夫妻は絵本も多数手掛けていて、今回展示する原画もその一つ。俊のやわらかい彩色で描かれるサーカスは、夢見心地のようなやさしい印象を与える。いっぽうスズキコージの描くサーカスは線も太く色も原色で、エキセントリックだ。画家によってサーカスの印象はがらりと変わるのがおもしろい。

また今回クローズアップされている澤田正太郎は、新国劇の創設者であった澤田正二郎の子息。上野の芸大卒で、絵本や雑誌の挿絵でおおいに売れた。サーカスには昭和30年代に集中的に通って、スケッチブック何冊も描いている。舞台の裏や幕に興味があったといい、掛け小屋の裏から描いた絵が多い。

そんな展示物のなかで圧巻は、やはり絵看板。都筑、鶴飼両氏所蔵の絵看板が、十数枚、天井の高い大空間に展示されていて、おもわず歌でも歌いたくなるような気持ちよさを味わう。



◆オリエンタルサーカスの絵看板

写真はオリエンタルサーカスの絵看板。青竹わたり、大一丁、一輪車、足芸のさしものなどの芸が描かれている。画家は津村雲山。見世物やサーカスの絵看板画家の第一人者だった。オリエンタルサーカスの母体は、丸山娯楽園と称して、昭和初期には生き人形を飾ってお化け屋敷を営業した興行社で、サーカスは戦後から昭和30年代まで活動していた。

澤田正太郎のスケッチのなかにも「オリエンタル」の文字が残っているから、彼のお気に入りのサーカス団だったのだろう。昭和33年には活動が確認できるものの、40年ぐらいいは解散したらしい。

現在は丸山工芸社として、お化け屋敷を全国で興行しており、本拠の栃木県佐野市では人形作家として県の伝統工芸士に認定されている。ところが、去る2月18日、近所からの火事が延焼し、事務所兼住宅と倉庫を全焼した。同社が設立された1922年以来の人形やその衣装、さらにはかつて使用したサーカスやお化け屋敷の絵看板などすべてを焼失した。わずかに残ったのは、今回の展示のために丸木美術館に運んであった、数枚の絵看板とわずかの備品だけとのこと。貴重な資料を失ったのは残念だが、それ以上に生活の糧をなくした丸山工芸社。ぜひ気落ちせず頑張ってください。

今回の関連イベントは次の通り。

4月21日(日) 石丸謙二郎の語るサーカス

5月18日(土) 上島敏昭の大道芸

5月18日(土) 都筑響一ギャラリートーク

ぜひ、ご来場を。

◆かわさきシネマ大道芸・講演会

かわさきシネマ大道芸は、今回で第5回。大道芸大会としては新参に属する。しかし他の大道芸大会と一線を画するのは、「シネマ」を冠するとおり、出演者は全員、演目のどこかに「映画」をからませるのが条件となっている。川崎市は「映像のまち・かわさき」を標榜しているとのことで、大道芸も「シネマ」の縛りをかけようということである。

その「かわさきシネマ大道芸」のなかで、日本の大道芸についての話をする事になった。気軽に引き受けたものの、何をしゃべったらいいのか、かなり悩んだ。会場は喫茶店だというから、あまりお勉強するようにはならないほうがよいだろう。とはいえ、

いわゆる「大道芸人」の裏話を求められているのでもなさそうだ。「平成」という時代が終わったばかりだから、現在この月報で断続的に掲載している「平成大道芸年表」を早回しして、平成の大道芸を俯瞰してみようか。そのためにはもう少し準備時間がほしい。シネマに的をしばって、「日本映画のなかの大道芸」というのはどうか。いや、映像を映すとなると著作権の問題がむずかしそうだ。等々、あれこれ考えた末、俳優の小沢昭一と大道芸ということでもまとめようと、方針を定めた。

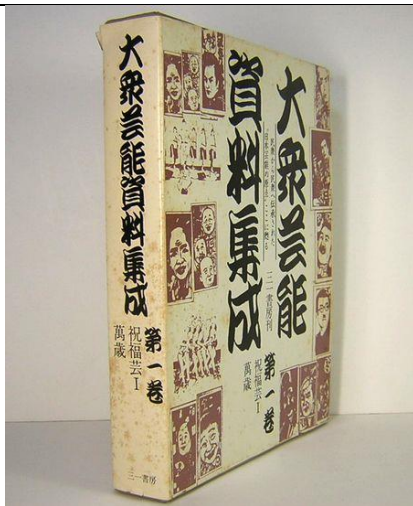
小沢昭一さんを大道芸の専門家に押し上げた記念碑的なレコード「ドキュメント日本の放浪芸」が世に出てから、ほぼ半世紀になろうとしている。このレコード以前と以後とでは、大道芸に対する世間の見方はまったく変わったのではないか。日本の大道芸にとってはそれくらいの大事件だったと、私は思う。しかし、それについてキチンと検証した人が誰かいるのだろうか。すくなくとも私は知らない。としたら、いまさらながら、と言われるのは覚悟で、およそ半世紀の日本の大道芸の変遷を、小沢昭一さんとの関わりからたどってみたい。愚直かもしれないけれど、それは決して無意味なことではないと思う。



◆ドキュメント日本の放浪芸

とにかく時間の制限があるので、大急ぎで、小沢昭一さんの年譜をたどりつつ、概要をまとめた。その内容は、4月7日の話を聞いていただきたいが、ここでは、わたしがどのようにして、小沢昭一さんと大道芸とにかかわるようになったのかを記しておきたい。

私が初めて小沢昭一さんにお会いしたのは、三一書房の『大衆芸能資料集成』という10巻本の編集のお手伝いをさせていただいたご縁による。



◆大衆芸能資料集成・第1巻

この全集は日本の民間芸能を、萬歳・大神楽などの祝福芸から、落語・講談・浪花節などの寄席芸を経て軽演劇などの舞台芸にいたる発展ととらえて、それぞれの実演台本や好事家が採集した口上書きなどを収録した資料集で、各巻の編者はそれぞれの専門家があたっていた。

私は、そのころ、演芸作家・評論家の小島貞二先生のもとで勉強していたので、小島先生が担当する「萬歳・万才・漫才」という巻の手伝いとしてこの仕事に関わった。小島先生は膨大な演芸資料コレクションを所蔵されていて、先生はその蔵書を片っ端から見て、関係ありそうな箇所にはフセンを入れる、それを私が書きうつすかコピーする。当時、まだコピーは一般的でなかった。それを先生がさらに選別する…というような作業で、割り付けや校正もこのとき教わった。その巻は数か月で終わったが、小島先生が話をつけてくれて、結局、全巻の手伝いをさせてもらうことになった。

小沢さんが担当する「座敷芸・大道芸」という巻も、そうしてお手伝いすることになった。小沢さんの要請は、全国の市町村史や県史をみると出てくるものがあるから、それを調べてほしいというもの。そこで、小沢さんが指示する地方の市町村史を国会図書館で一冊ずつ目を通すという作業を始めた。まだ函に入れてあるカードを繰って本をさがす時代で、目指す資料に行きつくのは、大変だった。また市町村史は町が合併したり、市に格上げされたりすると新刊が出たりするので、ほとんど際限なく作業はつづいた。ある程度、資料のコピーがたまると小沢さんに送り、再度指示がきて、またそれについて調べる。少なくとも半年ぐらいは国会図書館通いを続けたと思う。

そんなとき、ちょうど国立劇場で「道行く芸能」という公演が行われた。伊勢大神楽、尾張萬歳、秋田萬歳など、「日本の放浪芸」に収録した芸能を一堂に会した公演で、当時、復活して話題になっていた「周防の猿まわし」出演というのが最大の呼び物だった。司会はもちろん小沢さんである。

この全集には各巻に別刷8ページの附録を付けることになっていたの、この機会に猿まわし師に話をきいて、それを附録にしようと企画した。小沢さんに相談したところ、国立劇場の楽屋で引き合わせてくださったのが、現在、猿舞座の座長である村崎修二さんである。

劇場でなく、野外公演を見せてほしいという、数日後に、高島平団地の小公園で子供会主催の催しに呼ばれているという。さっそく、当時、国立文化財研究所におられた中村茂子さんに連絡し、中村さんと一緒に高島平団地の公園にでかけ、猿まわしをみて、そのあと、中村さんに聞き手になってもらい、村崎さんにインタビューし、原稿を書いてもらった。



◆猿まわし(村崎修二・ツネキチ)1981年3月

そんなことが、私と大道芸とのかかわりにもなる。その後、私は村崎修二さんの旅に同行させていただくようになり、20年以上、ほとんど全国を猿まわしの村崎さんと一緒に歩くことになった。2008年には、小沢さんにも出ていただいて、浅草・木馬亭で、村崎修二さんの子息耕平くんのデビューと猿まわし復活30周年を祝う催しを行った。

小沢さんはお亡くなりになったのは、その数年後のことである。



◆投げ銭を集める小沢昭一 2008年7月

(撮影・鈴木佳子)